

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 6 年 12 月 19 日

江別市立豊幌小学校

1 本年度の重点目標

対話を充実させ、互いに高め合う子どもを育成する

自分の考えを伝え合う・学んだことを試してみる・学んだことを広げていく

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	☐ 対話の充実を図り、互いに高め合う子どもの育成を目指す授業改革 ①学校全体で取り組む、対話を重視した授業づくり	A	・教師主導の講義型の授業からの脱却を図り、子どもたちが対話を通して課題解決に取り組む「子どもが主役の問題解決型授業」を継続していく。	A	A
	☐ 「チーム豊幌」の協働体制の充実 ①全教職員の協働・参画による組織的な学校経営 ②働き方改革や教育予算の適切な運用を通したウィルビーイングと心理的安全性の保障	A	・働き方改革の取組に対しての保護者や地域の理解・賛同を得ながら、校務の平準化及び教職員へのメンタルヘルスへの対応等をさらに進めていく。	A	A
	☐ 信頼される学校づくり ①保護者や地域との交流を大切にする学校経営 ②地域の人材や施設、自然環境等を積極的に活用する教育活動の実施 ③保護者や地域への適切な情報発信	A	・地域人材・資源の活用や地域行事への参加、地域の高齢者との交流等の取組を継続・発展させていく。	A	A
教育課程・学習指	☐ 資質・能力の確実な育成 ①各種学力調査の結果等客観的なデータに基づく児童の実態の把握と支援 ②個に応じた指導を通して、学習内容を確実に身に付けさせる支援の充実	A	・学習につまずいている児童を的確に把握し、個別の支援のさらなる充実を目指す。家庭や地域と協力し、家庭学習の充実を目指す。	A	A
	☐ 授業における ICT の効果的な活用 ①情報活用能力の育成 ②ICT を活用して適切に他者の考	A	・端末の使用を増やすと共に、健康面への配慮や安全かつ適切に使用できるよう	A	A

導	えを把握したり、考えの価値交換をしたりする場面の保障と充実		指導を行っていく。		
生徒指導	☐ 絆づくりと居場所づくり ①いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期解決に向けた組織的な取組の推進 ②自己決定しながら主体的に活動する場面の保障と充実	A	・心の健康観察を継続し、教育相談の日常化を目指す。 ・児童会活動や行事等での自己決定の場面の保証を徹底し、自主的・自立的な活動の充実を図っていく。	A	A
健康安全指導	☐ 心身の健全育成 ①体力向上の取組や外遊びの奨励、食育等、計画的・継続的な心身の健全育成の取組	A	・夏はグラウンドでのランニング、冬は室内での縄跳びに取り組ませることで、年間を通した体力の保持・増進を目指していく。	A	A
	☐ 安全・安心を最優先する危機管理 ①各種マニュアルの整備や共通理解に基づく組織的な対応	A	・小さい職場の良さを生かし、全教職員による情報の共有と共通理解に基づく共通行動の徹底を図っていく。	A	A
小中一貫教育	☐ 小中一貫教育 ①目指す子ども像の実現に向け、中学校区が一体となった効果的な教育活動の推進 ②学力向上に向け、中学校区全体で取り組む家庭学習の強化	A	・3年間の取組の成果と課題を明らかにすると共に活動の目的を見直し、取組を精選し、効果的なものとなるように改善を図っていく。	A	A
【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】 ・いつも子供たちのためにご苦労様です。教育には、これでいいということはないと思います。これからも、日々子供たちの変化等に目を配りながら学校生活をよろしく願ひいたします。(みなさんお体に気をつけて) ・学校内の廊下に掲示されている児童の作品を目にする機会があるのですが、習字や絵画などとても丁寧に描かれていると感じています。日頃から、先生方が子供たちに寄り添い丁寧な指導をされているのだと思います。今後も子どもたちが自己肯定感を持てるよう、ご指導をよろしくお願いします。また、小中一貫教育の効果にも期待しております。 ・全国的に35人学級も困難とされている社会環境下にあって、豊幌小の児童たちは、「いかに恵まれた環境」で学んでいるかを理解するのは困難であろう。それゆえに、児童も教職員も一人一人に応じた最適な学びや多様な学習が可能な少人数学級の効果を最大に活かし、児童であれば、中・高・大でもしっかりと自立できる基本を学び、教職員であれば30～40人学級でも対応できる経験を習得してもらいたいと思います。学校評価は、児童にも学校関係者にもすべてA評価です。					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない